木材利用・普及啓発

埼玉県　熊谷市（（仮称）道の駅「くまがや」整備事業）

- 熊谷市では、森林環境譲与税の創設を契機に、県産木材を活用して、木材利用や普及啓発活動を通じた住民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいる。
- 令和７年度においては、以下の取り組みにより、普及啓発活動を行った。
  - （仮称）道の駅「くまがや」整備事業に国産材及び埼玉県産木材を活用した。

□　事業内容

１．（仮称）道の駅「くまがや」整備事業

【事　業　費】総事業費（令和７年度分）　　434,630,000円
（うち森林環境譲与税　　118,696,000円）

【実　　績】

木造建築物の新築（食の棟、子どもの棟、屋根付き広場）における構造用集成材等に国産木材342.04㎥、埼玉県産木材205.08㎥を使用した。

□　取組の背景

熊谷市では、「熊谷市内の建築物等に関する木造化、木質化等に関する方針」に基づき、公共建築物等への木材利用を推進している。木材利用を通じて、森林資源の循環利用の促進、地球温暖化防止への貢献、地域林業及び木材産業の活性化を図ることを目的としている。

（仮称）道の駅「くまがや」は、施設の木造化・木質化を積極的に取り入れることで、市民や来訪者が木の温もりや魅力を感じられる空間づくりを進めるとともに、木材利用の普及啓発を図ることとした。



（屋根付き広場）



（子どもの棟）

□　工夫・留意した点

- 「熊谷市内の建築物等に関する木造化、木質化等に関する方針」を踏まえ、施設内に積極的に木材を取り入れ、来訪者が木の温もりや快適性を感じられる空間づくりを行った。
- 森林環境譲与税を活用することで、公共施設への木材利用を推進し、森林資源の循環利用や脱炭素社会の実現に資する取組となるよう留意した。

□　取組の効果

木の温もりを活かした施設づくりにより観光資源としての魅力が高まり、道の駅の集客力向上や地域経済の活性化にも寄与するものと考える。

◇　**基礎データ**

①令和７年度譲与額 ：24,806千円	**②私有林人工林面積**（※１） ：57ha	
③林野率（※１） ：2.7%	④人口（※２） ：194,415人	**⑤林業就業者数**（※２） ：2人

※１：「2020農林業センサス」より、※２：「R2国勢調査」より

木材利用・普及啓発

埼玉県　熊谷市（子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」）

- 熊谷市では、森林環境譲与税の創設を契機に、県産木材を活用して、木材利用や普及啓発活動を通じた住民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいく。
- このため、令和７年度においては、以下の取り組みにより、普及啓発活動を行った。
  ・子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」に埼玉県産木材を活用した。

□　事業内容

１．子育て支援・保健拠点施設整備事業

【事　業　費】総事業費（令和７年度分）　　4,453,618,758円
（うち森林環境譲与税　　10,374,504円）

【実　　績】

子育て支援・保健拠点施設「くまキッズ」内の一部の施設の内装に埼玉県産材を使用した。

・中央保育所　1,126㎡　　・こども館（石原児童クラブ）　184.2㎡
・保健センター　68.5㎡

□　取組の背景

熊谷市では、「熊谷市内の建築物等に関する木造化、木質化等に関する方針」に基づき、公共建築物等への木材利用を推進している。木材利用を通じて、森林資源の循環利用の促進、地球温暖化防止への貢献、地域林業及び木材産業の活性化を図ることを目的としている。

「くまキッズ」は、施設の木質化を積極的に取り入れることで、こどもや保護者、来庁者が木の温もりや魅力を感じられる空間づくりを進めるとともに、木材利用の普及啓発を図ることとした。


（中央保育所）


（こども館）


（保健センター）

□　工夫・留意した点

子どもたちが木の温もりを感じ、安全性・耐久性に配慮し、木質空間を整備した。

□　取組の効果

・木質化により、子どもや保護者が安心して利用できる、温かみのある施設環境を整備することができた。
・子どもたちを含む多くの利用者が日常的に木に触れられる機会を創出し、木材や森林に親しむ意識の醸成につながった。

◇　基礎データ

①令和７年度譲与額 ：24,806千円	**②私有林人工林面積**（※１） ：57ha	
③林野率（※１） ：2.7%	④人口（※２） ：194,415人	**⑤林業就業者数**（※２） ：2人

※１：「2020農林業センサス」より、※２：「R2国勢調査」より